

11月12日から11月25日は 「女性に対する暴力をなくす運動期間」

暴力は、性別や年齢、間柄を問わず、決して許されるものではありません。特に、配偶者や恋人からの女性に対する暴力は、女性の人権を著しく侵害するものであり、子どもがいる場合は児童虐待にもつながります。内閣府が実施した調査によると、女性の3人に1人が「暴力を受けたことがある」と回答しています。この運動をきっかけとして、暴力による人権侵害について考えてみませんか。あなたや、あなたの周りの誰かが被害に遭われた時は、ご相談ください。

【暴力の種類】

身体的暴力▽たたく・ける・物を投げるなど。
精神的暴力▽バカにする・傷つく言葉を言う・無視する・大声でどなるなど。社会的暴力▽メールや着信をチェックする・友達や家族との付き合いを制限するなど。性的暴力▽無理にキスや性行為をする・避妊に協力しないなど。経済的暴力▽お金を支払わない・お金を返さない・勝手に借金をするなど。



【相談先】

・西部子ども女性相談センター (☎ 0883-56-2109)
・三好市役所 子育て支援課 (☎ 72-7648)
※西部子ども女性相談センターでは暴力をはじめ、女性の自立のための問題(家族関係・離婚・経済的問題)についても相談を受け付けております。お気軽にお電話ください。



11月は児童虐待防止推進月間です

ためらわず 知らせてつなぐ 命の輪

児童虐待とは、社会全体で解決しなければならぬ問題です。

このため、11月を「児童虐待防止推進月間」と定め、児童虐待問題に対する深い関心と理解が得られるよう取り組みを行っています。

児童虐待とは

子どもに対する重大な人権侵害です。

子どもへの虐待とは、保護者などが子ども(18歳に満たない者)について行う行為で、子どもの心や身体を傷つけたり、健全な成長や発達を損なう場合をいい、生命に危険のある暴行などに限らず、子どもに対する不適切な関わりは全て含まれます。

子どもがづらい思いをしていたら、それは「しつけ」ではなく「虐待」です。子どもの立場に立つて考えることが必要です。

児童虐待の種類

【身体的虐待】なぐる、ける、投げ落とす、激しく揺さぶる、戸外に閉め出す など

【性的虐待】子どもへの性交、

虐待に気づいたら

「何かおかしいな」「限度を超えている」と感じたら、または児童虐待を受けたと思われる子どもを発見した方は、通告(相談)してください。

通告は子どもを守るためのもので、医師や公務員などの「守秘義務」違反にはなりません。

また、連絡した人が特定されないように、秘密は守られます。

性的行為の強要 など

【ネグレクト(養育の拒否・保護の怠慢)】食事を与えない、ひどく不潔にする、自動車の中に放置する、同居人による虐待を放置すること など

【心理的虐待】言葉によるおどし、無視、きょうだい間の差別的な扱い、子どもの目の前でドメスティックバイオレンスを行うこと など

子どもを虐待から守るために

虐待や不適切な関わりを受けている子どもたちは、何らかのサインを出しています。この虐待のサインを早く気付いてあげることが重要です。

子どもからのサイン

- 不自然な傷やアザのあと
- 季節にそぐわない服装をしている
- 衣服や体がいつも不潔である
- 夜遅くまで外で遊んでいる
- 落ち着きがない・乱暴

ひとりで悩まないで

子育てで悩んでいるのは、あなたひとりだけではありません。子育て中の方は何らかの悩みを抱えて、子育てをしています。でも、ひとりで悩まないでください。

【こんな悩みはありませんか】

- 子どもがかわいく思えない。
 - 周りに悩みを聞いてくれる人がいない。
 - 子どもを見ているとイライラしたり、たたいしてしまう。
- 誰かに自分の想いを聞いてもらうだけで、気持ちが楽になることもあります。今より少しでも良い方法を一緒に考えていきましょう。

児童虐待通告(相談)先 子育て相談先

- 三好市役所 子育て支援課
(子育て支援センター)
☎ 72-7666
- 西部子ども女性相談センター
(美馬保健所内)
☎ 0883-53-3110
- 児童相談所全国共通3桁ダイヤル
(お近くの児童相談所につながります)
☎ 189 (いち はやく)



結果的に通告が誤りであったとしても、刑事上・民事上の責任は問われません。

乳幼児揺さぶられ症候群 赤ちゃんを激しく揺さぶらないで

赤ちゃんがなにをやっても泣きやまないと、イライラしてしまうことは誰にでも起こり得ます。しかし、泣きやまないからといって、激しく揺さぶらないでください。

赤ちゃんや小さな子どもが激しく揺さぶられると、見た目にはわかりにくいですが、頭(脳や網膜)に損傷を受け、重い障害が残ったり、命を落とすこともあります。

どうしても泣きやまない時は、赤ちゃんを安全な所に寝かせて、その場を少しの間でも離れ、まず自分をリラックスさせましょう。

